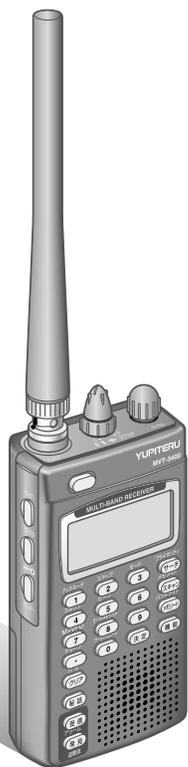


マルチバンドレシーバー  
**MVT-3400**

取扱説明書



このたびは、ユピテルのマルチバンドレシーバーをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

**⚠ 注意**

ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。  
なお、お読みになられたあとも、大切に保管してください。

本書の読みかた

MVT-3400を**お使いになる前に**必ずお読みください。

はじめに  
安全上のご注意や  
操作の前に準備し  
ておくことが書か  
れています。

まずは、**受信してみよう**  
細かい説明は後まわしにしてまずは受信してみま  
しょう。はじめてマルチバンドレシーバーをお使いに  
なる方はまず、ここを修得してみてください。

まずは受信してみよう  
MVT-3400は主要なバンド  
データがあらかじめ登録さ  
れていますので、簡単に受  
信操作ができます。

次に、**基本の操作**をすべ  
て修得してください。  
ここを読めば、MVT-3400の基本的な操  
作がわかります。すでにマルチバンドレ  
シーバーを使いこなしている方もお読み  
ください。

基本の操作

周波数の入力方法やサーチなど、MVT-  
3400の基本的な使いかたを説明して  
います。

MVT-3400を**使いこなす**  
ための説明です。  
基本の操作をすべて修得され  
てからお読みください。

メモリーとスキャン

サーチパスメモリーやチャンネルメモリーへの登  
録方法と、チャンネルメモリーを効率よく呼び出  
すスキャンなどについて説明しています。

その他の機能

周波数ステップ / 受信モードの変更、無線式盗聴器周波数の受  
信 / 盗聴器の発見方法など、特殊な電波を受信するための設定な  
どMVT-3400の豊富な機能を説明しています。また、MVT-  
3400を使ううえでの便利な機能についても説明しています。

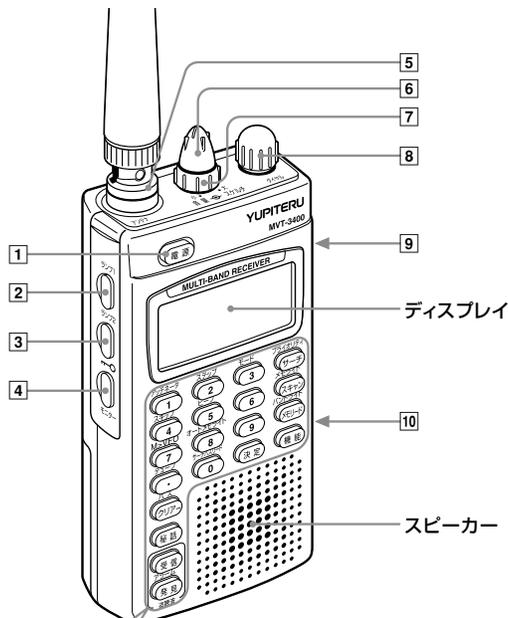
知っておきたいこと

初期設定の方法や「操作早見表」などがまとめられています。また、「故障か  
な?と思ったら」もご覧ください。

# 各部の名称

本書をご覧になるときは、このページを開いてお読みください。

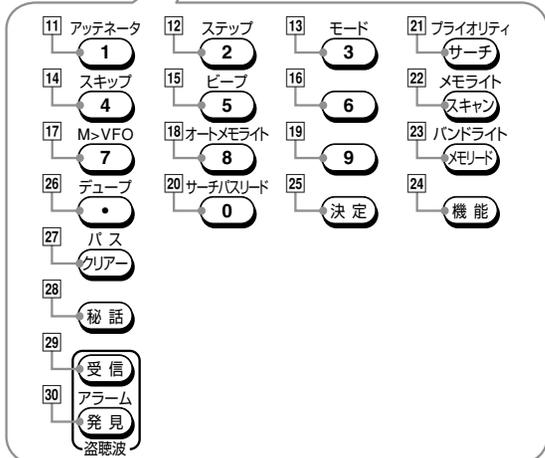
付属品



ディスプレイ

スピーカー

操作キーの名称



# 特長

## 情報のメインストリートをカバー

本機の受信範囲は、108MHz~170MHz、300MHz~470MHz、806MHz~1000MHz。情報のメインストリートをFM、AMの受信モードでカバー。周波数ステップも5kHz、6.25kHz、10kHz、12.5kHz、25kHzから選択できます。

## 面倒な設定がいらぬプリセット機能

周波数帯に合った周波数ステップと受信モードなどが、あらかじめ設定されています。周波数ステップの選択、または受信モード選択時に[AUTO]に設定すれば、受信周波数を選ぶだけで効率的な受信ができます。

※工場出荷時は[AUTO]に設定されています。

## 未知の情報を簡単受信、10バンドサーチ機能

航空無線、アマチュア無線、消防・救急・防災無線からパーソナル無線まで、主要10バンドのデータがあらかじめ登録されていますので、周波数を調べずに簡単に受信できます。また、この10バンドは登録内容を変更できます。

## 盗聴波発見機能も装備

使用される可能性の高い無線式盗聴器の周波数(141チャンネル)があらかじめ登録されています。

本機はこの141chを順次サーチし、その内容を聞くことで無線式盗聴器が仕掛けられているかどうかを確認できる受信モードと、近くに設置された無線式盗聴器のおおよその存在場所を探ることができる発見モード、さらには、その場所を特定することができるアラームモードを備えています。

※141チャンネルのデータは変更できません。

## 500チャンネルメモリー機能

受信したいチャンネルを最大500チャンネルまで登録できる、大容量のチャンネルメモリー機能。さらに、そのチャンネルメモリーを効率良く受信するスキャン機能(メモリースキャン/バンクスキャン)を備えています。また、不要な周波数を最大100まで指定して、サーチ周波数からパスできるサーチバースメモリーも備えています。

## 高速スキャン/サーチ機能

スキャン/サーチスピードは、1秒間に最大で30チャンネル/30ステップと高速です。

## 10チャンネルのプライオリティメモリー

10チャンネルの豊富なプライオリティメモリーにより、他の周波数を受信中でも、大事な電波を逃さず受信できます。

## 秘話解読機能

音声反転方式の秘話通信を、通常音声に戻して受信できるディスクランブル回路を内蔵しています。

## デュプレックス受信機能

決められた周波数で相互に交信している無線局を受信する場合、その2つの周波数を切り換えながら、スムーズに受信できます。

## バックライト付多機能ディスプレイ、キーイルミネーション機能

## どこでも使える3電源方式

市販の単3形アルカリ乾電池やニカド電池での携帯使用、付属のACアダプターによる家庭用電源での使用、別売のシガープラグコード(12Vシガーライターソケット使用)による車載使用ができます。

## クローン機能

メモリー内容を他のMVT-3400にコピーすることができます。

# 目次

本書の読み方 .....	2
各部の名称 .....	3
特長 .....	4
安全上のご注意 .....	6
使用上のご注意 .....	9
各部の名称とはたらき .....	10
付属品の確認と取り付け .....	14
電源について .....	15
まずは受信してみよう .....	16
準備 .....	16
準備ができたなら、まずは 受信してみましょう .....	17
選局する(VFOモードで受信する) .....	18
VFOモードとは .....	18
VFOモードにする .....	18
周波数ステップ/受信モードの選択 (オートモードにする) .....	18
数字キーによるダイレクト選局 .....	19
ダイヤルつまみによる周波数選局 .....	20
△キーまたは▽キーによる ステップ選局 .....	20
選局する(サーチモードで受信する) .....	21
VFOサーチとは<連続サーチ> .....	21
VFOサーチする .....	21
サーチの方向を変える .....	21
バンドサーチとは .....	22
バンドサーチする .....	22
サーチパスメモリー .....	24
サーチパスに登録する .....	24
サーチパスメモリーリードする .....	24
サーチパス登録を解除する .....	25
チャンネルメモリー .....	26
チャンネルメモリーに登録する .....	26
チャンネルメモリーリード <チャンネルメモリーの呼び出し> .....	27
チャンネルメモリーの登録を削除する .....	27
チャンネルメモリーの周波数を VFOモードへコピーする .....	28
スキャンパスに登録する .....	28
スキャンパス登録を解除する .....	29
スキャン(チャンネルメモリースキャン) .....	30
連続スキャンする <全チャンネルスキャン> .....	30
スキャンの方向を変える .....	31
バンクスキャンする <バンク指定スキャン> .....	31
プライオリティ .....	32
プライオリティチャンネルに 登録する .....	32
数字キーを使って プライオリティ受信する .....	32
周波数ステップを変更する .....	33
受信モードを変更する .....	34
無線式盗聴器の探し方 .....	35
盗聴器周波数をサーチする <特定周波数サーチ> .....	35
盗聴電波を発見する <盗聴波発見モード> .....	36
盗聴器を発見する <盗聴波発見アラームモード> .....	37
1 室内に仕掛けられた盗聴器を探す .....	38
2 電話機に仕掛けられた盗聴器を探す .....	38
3 盗聴器が仕掛けられている 可能性があるときには .....	39
4 盗聴器が仕掛けられている 場所を探す .....	39
デュプレックス受信する .....	40
デュプレックスモードに設定する .....	40
デュプレックス交信を受信する .....	40
音声反転(スクランブル)の 秘話交信を聞く .....	41
サーチヤスキャンの付加機能 .....	42
スキップ機能 .....	42
オートメモリーライト機能 .....	42
サーチバンドの内容を 登録(変更)する .....	43
サーチバンドメモリー .....	43
付加機能(便利な機能を使う) .....	44
モニター機能 .....	44
ランプ機能 .....	44
ピープ音の切り換え .....	45
キーロック機能 .....	45
アッテネーター機能 .....	46
クローン機能 .....	46
初期設定について .....	48
リセット機能について (メモリーオールクリア) .....	48
故障かな?と思ったら .....	51
アフターサービスについて .....	52
仕様 .....	53
操作早見表 .....	54

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。ここに記載された注意事項は、製品を正しくお使いいただき、使用するかたへの危害や損害を未然に防止するためのものです。安全に関する重大な内容ですので、必ず守ってください。また、注意事項は危害や損害の大きさを明確にするために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」、「注意」の2つに分けています。

**警告**：警告を無視した取り扱いをすると、使用者が死亡や重傷を負う可能性があります。

**注意**：注意を無視した取り扱いをすると、使用者が傷害や物的損害をこうむる可能性があります。

## 絵表示について

△ △ 記号は注意を促す内容であることを告げるものです。

⊘ ⊘ 記号は禁止の行為であることを告げるものです。

● ● 記号は行為を強制したり、指示を告げるものです。

## 警告

水をつけたたり、水をかけない。また、ぬれた手で操作しない  
火災や感電、故障の原因となります。

風呂などで使用しない。また、ぬれた手で電源を抜き差ししない  
感電の原因となります。

表示された電源電圧以外では使用しない  
火災や感電、故障の原因となります。

電源コードを傷つけたり、無理に曲げたり、加工しない。また、電源コードが傷んだら使用しない  
感電やショートによる発火の原因となります。

電源に接続する場合に分岐やタコ足配線をしてはいけない  
異常過熱や発火、故障の原因となります。また、別売のシガープラグコードでカー電源に接続する場合は、極性にご注意ください。本機はマイナスアース車専用です。

ACアダプターやシガープラグコードの差し込みは、確実に行う  
接触不良を起こして、火災の原因となります。

ACアダプターやシガープラグコードの差し込み部分のホコリをよくふく  
接触不良を起こして、火災の原因となります。

ACアダプターやシガープラグコードは付属または指定のもの以外は使用しない  
火災や感電、故障の原因となります。

## 警告

穴やすき間にピンや針金などの金属を入れない  
火災や感電、故障の原因となります。

機器本体および付属品を改造しない  
火災や感電、故障の原因となります。

万一、キャビネットを破損した場合は、すぐにACアダプターやシガープラグコードを抜く  
そのまま使用すると火災や感電、故障の原因となります。

雷が鳴りだしたら使用を中止する  
感電の原因となります。

サービスマン以外の人は、絶対に機器本体および付属品を分解したり、修理しない  
感電や故障の原因となります。内部の点検や調整、修理は販売店にご依頼ください。

運転中は絶対に操作しない  
わき見運転は重大事故の原因となります。

自動車で使用する場合、運転の妨げにならない場所、また、自動車の機能(ブレーキ、ハンドル等)の妨げにならない場所に取り付ける  
誤った取り付けは、交通事故の原因となります。

自動車で使用する場合、助手席エアバックの近くに取り付けたり、配線をしてはいけない

万一のとき、動作したエアバックで本体が飛ばされ、事故やケガの原因となります。また、電源コードが妨げとなり、エアバックが正常に動作しないことがあります。

煙が出ている、変な臭いがするなど、異常な状態のまま使用しない  
発火の恐れがあります。すぐにACアダプターやシガープラグコードを抜いて、販売店に修理をご依頼ください。

**⚠️ 注意**

-  電源コードを熱器具に近づけない  
コードの被覆が溶けて、火災や感電の原因となります。
-  不安定な場所や振動、衝撃の多い場所に置かない  
落ちたり、倒れたりして、ケガや故障の原因となります。
-  電源を抜くときは、電源コードを引っ張らない  
コードに傷がついて、感電やショートによる発火の原因となります。
-  移動させるときは、ACアダプターやシガープラグコードを外す  
コードに傷がつき、火災や感電の原因となります。
-  電池を入れるときは、極性に注意し、指示通り入れる  
間違えて入れると、電池の破裂や液漏れにより、火災やケガ、周囲を汚損する原因となります。
-  指定以外の電池は使用しない、また、古い電池を混ぜて使用しない  
電池の破裂や液漏れにより、火災やケガ、周囲を汚損する原因となります。
-  使用済みの電池を火中に投げ入れない  
爆発して火災や火傷の原因となります。
-  お手入れの際は、ACアダプターやシガープラグコードを外す  
感電の原因となります。
-  長時間ご使用にならないときは、ACアダプターやシガープラグコードを外す  
絶縁劣化による感電や、漏電火災の原因となります。
-  長時間ご使用にならないときは、中の電池を抜く  
液漏れにより、周囲を汚損する原因となります。
-  イヤホンやヘッドセットで使用するときは、音量に注意する  
突然の大きな音で耳を傷める恐れがあります。
-  旅客用飛行機の中では使用しない  
飛行機の計器に異常を与える可能性があります。
-  病院の中では使用しない  
医療用電気機器に電波による影響を与える可能性があります。医療機器の近くでは電源を切り、絶対に使用しないでください。

# 使用上のご注意

## 取り扱いについて

■本機が汚れたときは、柔らかい布などでふいてください。ポリエステルなどの静電気が起きやすいもの、ベンジンやシンナー、化学ぞうきん、洗剤は使用しないでください。



- 本機は広帯域受信機ですので、受信機内部の発振(スプリアス)により受信できなかったり、雑音が発生する周波数があります。また、テレビやラジオなどの近くで使用した場合には、影響を与えることがあります。
- 他の無線機やテレビ、ラジオ、パソコン等のデジタル機器の近く、車内などでは雑音が入る場合があります。
- 次のような場所での使用や放置はしないでください。
  - 直射日光の当たる場所や暖房器具の近く、あるいは炎天下の自動車内など温度の高くなる場所
  - 湿度の高い場所や風通しの悪い場所
  - ホコリや油煙の多い場所
  - 非常に温度が低い場所

## 電源について

- ニカド電池を使用するときは、市販の充電器で充電してからお使いください。
- アルカリ電池での連続使用時間は、約17時間(ランプオフ、音量中間のとき)です。(連続使用時間は受信状態により変化します)

## 無線局について

- 一部の機密を要する無線では、音声として聴くことのできない通信方式(デジタル通信など)が採用されています。

## メモリーについて

■本体の電源ボタン[1]で電源を切ると、そのときの状態がメモリーされます。本体の電源を入れたまま外部電源の抜き差しや、電池の出し入れをすると、最後の状態はメモリーされず、次に電源を入れたときは、初期設定状態から始まります。

## アンテナについて

- 受信状況は、ご使用になる場所やアンテナによって変化します。
- ご使用になる場所やアンテナによってはテレビ放送などの強い電波の影響を受けて良好な受信ができないことがあります。
- 付属のフレキシブルアンテナ以外に市販のアマチュア無線用のアンテナなども使用することができますが、その際は、目的とする周波数に合ったアンテナをご用意ください。使用されるアンテナ(増幅回路付外部アンテナなど)によっては混変調を起こしたり、受信状態を悪化させる場合があります。
- 本機のANT端子はBNC型、インピーダンスは50Ωです。

## 受信内容について

■お客様が受信した内容は、電波法上、第三者に漏らしたり、行動に移したりすることが禁止されています。

万一、異常や不具合が起きたときは、すぐに使用を中止し、お買い上げの販売店、または最寄りの弊社営業所・サービス部にご相談ください。

## 本体

- 1 電源ボタン(電源)**  
電源の入/切ができます。
- 2 △/ランプ1キー(アップ/ランプ1キー)**  
周波数の移動やサーチ/スキャンの強制移動(方向指定)などの操作ができます。また機能モード時は、ディスプレイとキーボードの照明操作(ランプ1)キーになります。
- 3 ▽/ランプ2キー(ダウン/ランプ2キー)**  
△キーと逆方向のはたらきをします。また機能モード時は、(ランプ2)のはたらきになります。
- 4 モニター/—/ロキー(モニター/ロック)**  
受信信号が弱く、音声が途切れるときなどに聞き取りやすくします。また、デュプレックスモード時は周波数をシフトし、機能モード時はロックキーとしてはたらきます。
- 5 アンテナ端子(アンテナ接続)**  
アンテナを接続します。
- 6 音量ツマミ(音量調節)**  
右に回すと音量が大きくなり、左に回すと音量が小さくなります。
- 7 スケルチツマミ(スケルチ調整)**  
無信号時の“ザー”という雑音を消すことができます。受信信号を効率よく受信するために使います。
- 8 ダイアルツマミ(チューニング)**  
周波数やチャンネルメモリーの移動、受信モードの切り換え、周波数ステップの切り換えなどができます。また、秘話解読機能をはたらかせたときは違はたらきとなります。
- 9 イヤホン端子(外部スピーカー)**  
外部スピーカーやイヤホンを接続します。この端子に接続すると、本体のスピーカーからの音は出なくなります。
- 10 DC12Vジャック(外部電源)**  
付属のACアダプターや別売のシガープラグコードを接続します。

## キーボード

操作キーは、直接キーを押したときと、機能キー<sup>24</sup>との組み合わせで2通りのはたらきをします。  
直接キーを押したとき(ダイレクト入力モード)にはキー表面の機能を実行できます。

■ダイレクト入力モード時の機能  
直接キーを押したとき

プライオリティ  
サーチ — ダイレクト入力モードの操作

操作キー	機能
11	数字キー (1)
12	数字キー (2)
13	数字キー (3)
14	数字キー (4)
15	数字キー (5)
16	数字キー (6)
17	数字キー (7)
18	数字キー (8)
19	数字キー (9)
20	数字キー (0)
21	サーチキー
22	スキャンキー
23	メモリーリードキー
24	機能(ファンクション)キー
25	決定(エンター)キー
26	小数点キー (.)
27	クリアーキー
28	秘話解読キー
29	盗聴波受信モードキー
30	盗聴波発見モードキー

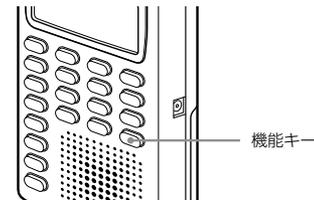
**24 機能キー(ファンクション)**  
キーのはたらきを切り換えることができます。

■機能キーを押した(機能モード)時の機能  
機能キー<sup>24</sup>を押して([FUNC]が点灯中)から別のキーを押すことにより、キー上部に表示された機能を実行することができます。

機能

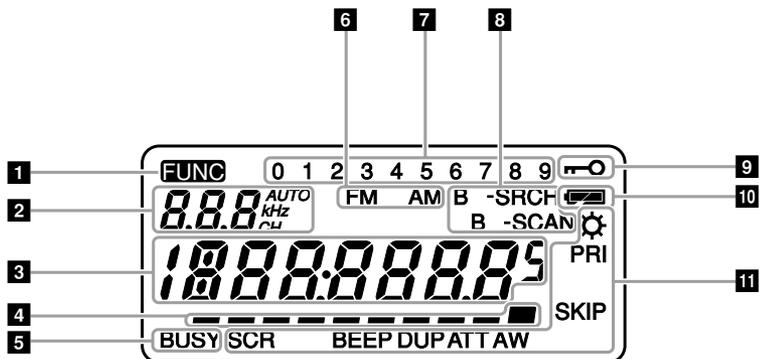


プライオリティ  
サーチ — 機能モードの操作



操作キー		機能	
24 → 11	機能 ▶	アッテネーター	アッテネーターキー
24 → 12	機能 ▶	ステップ	ステップキー
24 → 13	機能 ▶	モード	モードキー
24 → 14	機能 ▶	スキップ	スキップキー
24 → 15	機能 ▶	ビーブ	ビーブキー
24 → 17	機能 ▶	メモVFO	メモリー-VFOキー
24 → 18	機能 ▶	オートメモライト	オートメモリーライトキー
24 → 20	機能 ▶	サーチパスリード	サーチパスリードキー
24 → 21	機能 ▶	プライオリティ	プライオリティキー
24 → 22	機能 ▶	メモライト	メモリーライトキー
24 → 23	機能 ▶	バンドライト	バンドライトキー
24 → 26	機能 ▶	デュプレックス	デュプレックスキー
24 → 27	機能 ▶	バス	バスキー
24 → 30	機能 ▶	アラーム	盗聴波発見アラームモードキー
24 → 2	機能 ▶	ランプ1	ランプ1キー
24 → 3	機能 ▶	ランプ2	ランプ2キー
24 → 4	機能 ▶	ロック	ロックキー

ディスプレイ

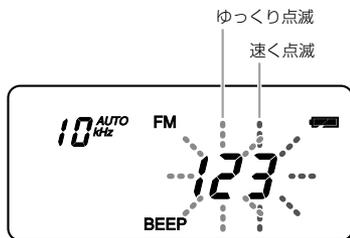


■周波数表示の見かた



■点滅表示の見かた

設定の状態により、ゆっくりした点滅と速い点滅で表示している場合です。



**1 機能モード(ファンクション)表示**  
機能モードにすると点灯します。

**2 周波数ステップ/チャンネルメモリー表示部**

サーチやVFOモード中に周波数ステップ【kHz】を表示します。また、盗聴器周波数サーチ中は【bus】を表示します。

スキャン中やメモリーリード時はチャンネルナンバー【CH】を表示します。周波数ステップの選択や受信モードの選択でオートを設定したときは【AUTO】を表示します。また、プライオリティチャンネルでは【P CH】が表示され、サーチパス周波数の呼び出しでは【P】が点滅で表示されます。

**3 周波数表示部**

選んだ周波数や入力中の数値などを表示します。

**4 受信レベル(Sメーター)表示部**

受信している電波の状態を表示します。

**5 BUSY表示**

モニターキーが押されているときや信号を受信したときなど、スケルチが開いたときに点灯します。

**6 受信モード表示**

選択している受信モード(電波型式)を表示します。

**7 バンド/バンクナンバー表示部**

選択されているバンドや、バンクのナンバーなどを表示します。

**8 動作モード表示**

サーチやスキャンなどの動作状態を表示します。

**9 ロック表示**

ロックにすると点灯します。

**10 バッテリー状態表示**

本機の電源ONの間、電池の容量を4段階で表示します。

電池の残量表示について

本機は、電源ONのとき、電池の残量を4段階で表示します。



●電池の残量が完全になくなった場合は、ディスプレイに何も表示されません。

**11 設定状態表示部**

機能の設定状態を表示します。

# 付属品の確認と取り付け

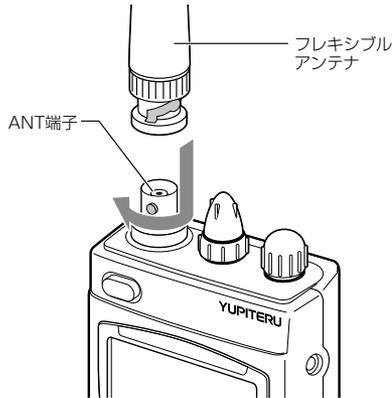
## 付属品リスト

ご使用前に、付属品をご確認ください。

- フレキシブルアンテナ ..... (1)
- ACアダプター ..... (1)
- ベルトクリップ ..... (1)
- イヤホン ..... (1)
- 取扱説明書 ..... (1)
- 保証書 ..... (1)
- メモリーリスト ..... (1)

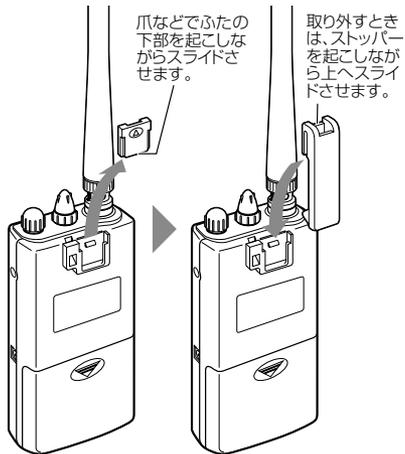
## アンテナの取り付けかた

付属のフレキシブルアンテナの溝と、ANT端子の凸部を合わせて差し込み、軽い手応えがあるまで時計方向に回します。



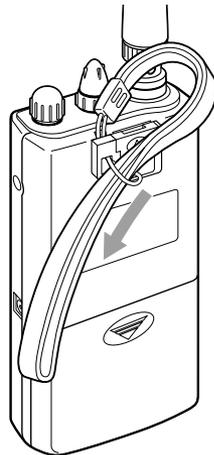
## ベルトクリップの取り付けかた

ベルトクリップ取り付け部のフタをはずし、図のように差し込みます。



## ハンドストラップの取り付けかた

市販のハンドストラップを、図のように取り付けることができます。



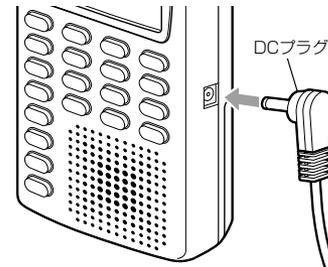
# 電源について

本機は、付属のACアダプターや別売のシガープラグコードを接続しての外部電源(家庭用電源、カー電源)での使用や、市販の単3形アルカリ乾電池、ニカド電池での携帯使用ができます。

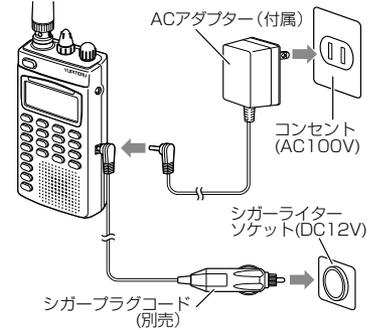
## 外部電源で使う

### 1 DC12VジャックにACアダプターや別売のシガープラグコードのDCプラグを接続する

ACアダプターやシガープラグコードを接続するときは、必ず電源を切った状態で行ってください。



### 2 ACアダプターやシガープラグを、家庭用電源コンセント(AC100V)や車のシガーライターソケット(DC12V)に接続する

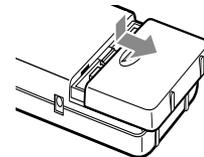


- ACアダプターやシガープラグコードは、付属または別売のもの以外は使用しないでください。
- 別売のシガープラグコードは、DC12V $\ominus$ 接地車専用です。24V車(大型トラック、バス等)では、使用できません。
- 別売のシガープラグ内部のヒューズが切れた場合は、新しいヒューズ(1A)と交換してください。また、交換してもすぐにヒューズが切れる場合は、使用を中止し、シガープラグコードを抜いてお買い上げの販売店、または最寄りの弊社営業所・サービス部にご相談ください。
- シガープラグ内部には、ヒューズとスプリングが入っています。ヒューズを交換するときは、部品の紛失に注意し、順序を合わせて入れ直してください。

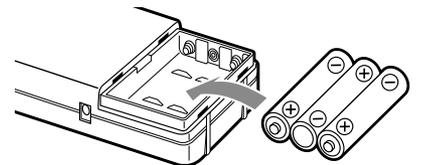
## アルカリ電池やニカド電池で使う

### 1 電池カバーを外す

電池をセットするときは、必ず電源を切った状態で行ってください。



### 2 単3形電池3本を内部の指示に従ってセットし、電池カバーを閉める



本機は、外部電源を接続して、内蔵したニカド電池を充電することはできません。

- 種類の違う電池や古い電池などを混ぜて使用しないでください。
- 長時間使用しないときは、電池を抜いてください。

# まずは受信してみよう

## 準備

### 1 スケルチツマミ⑦を左に回しきる



### 2 電源を入れる

電源ボタン①を押し続けると、電源が入ります。



●購入後、初めて電源を入れたときは次のような表示になります。



### 3 音量を調節する

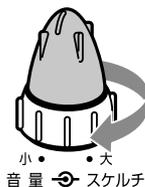
音量ツマミ⑥を回して調節します。



### 4 受信状態を調整する(スケルチ調整)

“ザー”というノイズが出ているときは、ノイズが消える位置までスケルチツマミを右に回します。このとき、モニターキー④は押さないでください。(「モニター機能」44ページ)

また、音声が出ているときは、スケルチツマミを中間の位置にします。



●スケルチツマミを右に回しすぎると弱い電波が受信できなくなり、左に回しすぎると雑音などを受信してしまいます。電波の状況に合わせて調整してください。

## 準備ができれば、まずは受信してみましょう

MVT-3400では、主要なバンドがあらかじめ登録されていますので、以下の操作で簡単に受信できます。

### 1 数字キー(1~9、0)を押して、聞きたいバンドを選ぶ(バンド指定)

### 2 続けてサーチキー⑭を押す

<バンド9を指定した場合の例>



サーチが始まりディスプレイの周波数表示が変化します。



電波を受信するとサーチが停止します。

受信中:周波数を表示し、音声での通信がされているときには、スピーカーから音がでます



### 3 受信中(サーチ停止中)にダイヤルツマミ⑧の操作または△キー⑮を押す



再びサーチが始まります。

上記の手順で、他のバンドも受信してみましょう。数字キーにより、以下の内容の交信が受信できます。

キーの操作	受信内容 (名称)
①	航空無線他
②	アマチュア無線(VHF)
③	消防、救急、防災他
④	小電力コードレス
⑤	アマチュア無線(UHF)
⑥	タクシー無線
⑦	簡易無線他
⑧	地域防災行政無線
⑨	MCA(業務)無線
⑩	パーソナル無線

### 4 サーチを解除するときは、サーチキー⑭を押します

※ここまでの操作ができれば、「基本の操作」へ進みます。

(MVT-3400の基本的な操作のしかたを説明しています。上記のバンドサーチについては、22ページに詳しい説明があります)

## VFOモードとは

数字キーやダイヤルツマミ、△マキーを使って周波数を入力したり、変更することができる状態をVFOモードといいます。

VFOモード時のディスプレイは、周波数ステップが点灯している状態になります。【PRI】や動作モード表示部の(【SRCH】、【SCAN】)、周波数ステップ/チャンネルメモリー表示部のチャンネルナンバーやP表示(P)などは消えています。

購入後、初めて電源を入れたときはVFOモードになります。

## VFOモードにする

次の4つの方法があります。

### ■【SRCH】が点灯中に

サーチキー[21]を押す。



### ■【SCAN】が点灯中に

メモリーリードキー[23]を2回押す。



### ■チャンネルナンバーが点灯中に

メモリーリードキー[23]を押す。



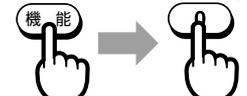
### ■【PRI】が点灯中に

機能キー[24]を押してからサーチキー[21]を押す。



### ■【P】が点滅中に

機能キー[24]を押してから、サーチパルスリードキー[20]を押す。



## 周波数ステップ/受信モードの選択(オートモードにする)

### プリセットについて

電波は、使用する目的や周波数帯によって、受信モード(電波型式)や周波数ステップ(周波数の間隔)の割り当てが異なります。

本機は、あらかじめ周波数帯に合わせて最適な周波数ステップと受信モードが設定されており、周波数ステップの選択や受信モードの選択時に【AUTO】を選択すれば、受信周波数を合わせるだけの操作で、効率的な受信ができます。

### ■PRESET区分表

下限周波数 (MHz)	上限周波数 (MHz)	STEP周波数 (kHz)	受信モード
108.00000	141.97500	25	AM
142.00000	154.99000	10	FM
155.00000	170.00000	12.5	FM
300.00000	429.98750	12.5	FM
430.00000	440.01000	10	FM
440.01250	470.00000	12.5	FM
806.00000	903.00625	6.25	FM
903.01250	904.98750	12.5	FM
905.00000	1000.00000	6.25	FM

- 購入後、初めて電源を入れたとき(工場出荷時)はVFOモードで、周波数ステップ/受信モードはオートモード【AUTO】になります。
- 初めてマルチバンドレシーバーを使用される方は、このオートモードの状態から操作をしてください。

オートモード時点灯



- 操作をはじめの前に、他のキーを押すなどしてオートモード以外の設定になっている場合は、周波数ステップの変更または受信モードの変更操作(33、34ページ)を参照して、オートモードに設定し直してください。

## 数字キーによるダイレクト選局

VFOモードのとき、数字キーを使って周波数を入力することができます。

### 1 受信したい周波数を、上の位から順に入力する

MHz桁、小数点キー、kHz桁、Hz桁の順に入力します。入力途中の数字は点滅します。

### 2 決定キー[25]を押す

入力が確定し、周波数が点滅から点灯に変わります。

- 入力可能な周波数範囲は108MHz~170MHz、300MHz~470MHz、806MHz~1000MHzです。入力された数字が本機の受信範囲以外の場合は“ビボボ”と鳴り、【Error】が一瞬表示され入力前の表示に戻ります。

- MHzは最大4桁まで入力できます。小数点キー(.)[26]を押さずに5桁目を入力すると、はじめに入力した数値から無効になります。また、kHzとHzは合わせて5桁まで入力できます。小数点キー(.)を押したあとに6桁目を入力すると“ビボボ”と鳴り、6桁目は受け付けません。

- 入力された数値は、周波数ごとにあらかじめ設定されている周波数ステップ、受信モードなどの設定状況に合った数値に変更されて決定されます。
- オートモードのときは入力した周波数に適した周波数ステップと受信モードが自動的に設定されます。
- 周波数の入力中に約10秒以上操作が行われなると入力できず、操作前の表示に戻ります。

### 入力例

① [3][.] [4][.] [5][.] [決定] と入力した場合

入力キー	表示
3	----- 3-
4	----- -3.4-
5	----- -34.5-
決定	345.000.0 (345MHzの入力となります)

② [2][.] [1][.] [0][.] [0][.] [決定] と入力した場合(受信範囲外の場合)

入力キー	表示
2	----- 2-
1	----- -2.1-
0	----- -21.0-
0	----- 210.0-
決定	Err or (エラー音が鳴り、入力前の表示になる)

③ [8][.] [7][.] [6][.] [.] [9][.] [8][.] [7][.] [6][.] [5]

[決定] と入力した場合

入力キー	表示
8	----- 8-
7	----- -8.7-
6	----- -87.6-
.	-876.----- (MHz桁をシフト)
9	-876.9-----
8	-876.98-----
7	-876.987.---
6	-876.987.6.-
5	-876.987.65
	(5以上のキーで5を表示、4以下未表示)
4	-876.987.65
	(エラー音が鳴り受け付けない)
決定	-876.987.5 (周波数ステップにより決定)

周波数ごとにあらかじめ設定されている周波数ステップにより決定される周波数は異なりますが、購入後、初めて電源を入れた状態から上記の入力操作をした場合に決定される周波数は876.987.5(876.9875MHz)となります。

## 選局する(VFOモードで受信する)

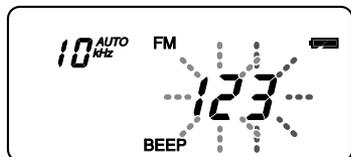
### 数字キーによるダイレクト選局(つづき)

#### 周波数の変更や訂正

周波数の入力中に、桁を選んで数字を変更することができます。

#### 1 クリアキー $\square$ を押す

下1桁が早く点滅します。



- クリアキー $\square$ をもう1度押すと、変更を中止し、操作前のVFOモードに戻ります。

#### 2 $\triangle$ キー $\square$ または $\nabla$ キー $\square$ を押して、訂正する桁を選ぶ

早く点滅している桁が訂正できます。

#### 3 正しい数字を入力する

ダイヤルツマミ $\square$ や数字キーで正しい数字を入力します。

#### 4 決定キー $\square$ を押す

入力途中の状態に戻ります。

続けて入力する場合は、次の数字を入力します。

- 約10秒以上操作が行われないときには、操作前の表示に戻ります。

#### 5 もう1度、決定キー $\square$ を押す

入力が決定します。

### ダイヤルツマミによる周波数選局

VFOモードのとき、ダイヤルツマミ $\square$ を回すと、選んでいる周波数ステップで1ステップずつ周波数が変わります。

#### 周波数を進める

ダイヤルツマミ $\square$ を右に回す



#### 周波数を戻す

ダイヤルツマミ $\square$ を左に回す



### $\triangle$ キーまたは $\nabla$ キーによるステップ選局

VFOモードのとき、 $\triangle$ キー $\square$ または $\nabla$ キー $\square$ を押すと、選んでいる周波数ステップで1ステップずつ周波数が変わります。

#### 周波数を進める

$\triangle$ キー $\square$ を押す



#### 周波数を戻す

$\nabla$ キー $\square$ を押す



$\triangle$ キー $\square$ または $\nabla$ キー $\square$ を1秒以上押し続けると、押ししている間は周波数の早送り、または早戻しができます。

## 選局する(サーチモードで受信する)

次ページに続く

VFOモードのとき、表示中の周波数から本機の受信周波数内をサーチさせることができます。

### VFOサーチとは<連続サーチ>

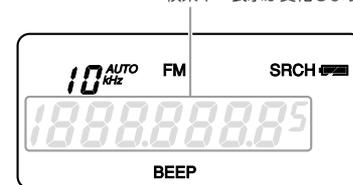
電波(周波数)をサーチ(探す)して見つけると、自動的に受信する機能です。設定されている受信モードと周波数ステップでサーチし、受信中に電波が約2秒以上途切れると、再びサーチが始まります。

### VFOサーチする

#### サーチキー $\square$ を押す

[SRCH]が点灯し、サーチが始まります。

検索中：表示が変化します



解除するときは、もう1度サーチキー $\square$ を押します。[SRCH]が消えます。

#### サーチ方向を指定するには

- サーチが停止中(受信中)にダイヤルツマミ $\square$ や $\triangle$ キー $\square$ 、 $\nabla$ キー $\square$ を操作すると方向が指定され、再びサーチが始まります。

### サーチの方向を変える

ダイヤルツマミ $\square$ や $\triangle$ キー $\square$ 、 $\nabla$ キー $\square$ を操作する

#### 周波数の高い方へ

##### サーチ

ダイヤルツマミ $\square$ を右に回す  
または  
 $\triangle$ キー $\square$ を押す



#### 周波数の低い方へ

##### サーチ

ダイヤルツマミ $\square$ を左に回す  
または  
 $\nabla$ キー $\square$ を押す



## 選局する(サーチモードで受信する)

### バンドサーチとは

一定の周波数範囲内をサーチさせることができます。周波数そのものが不明な場合でも、おおよその周波数さえわかれば、バンドを指定し範囲内のサーチを行うことができます。

本機は、工場出荷時にあらかじめ下表の内容で登録されています。

また、これらの10バンドは内容を書き替えることもできます。

#### バンドの初期登録内容

バンド	名称	下限周波数(MHz)	上限周波数(MHz)	STEP周波数(kHz)	受信モード
1	航空無線他	108.0000	141.9750	25	AM
2	アマチュア無線(VHF)	144.0000	146.0000	10	FM
3	消防、救急、防災他	146.0200	154.6100	10	FM
4	小電力コードレス	380.2125	381.3125	12.5	FM
5	アマチュア無線(UHF)	430.0000	440.0000	10	FM
6	タクシー無線	450.0125	451.5000	12.5	FM
7	簡易無線	465.0375	468.8500	12.5	FM
8	地域防災行政無線	846.2500	849.7500	6.25	FM
9	MCA(業務)無線	850.0125	859.9875	6.25	FM
0	パーソナル無線	903.0375	904.9875	12.5	FM

### バンドサーチする

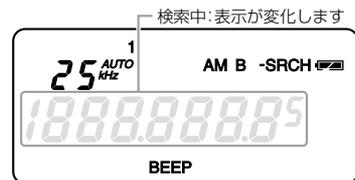
**1** 数字キー(1~9、0)を押して、聞きたいバンドを選ぶ(バンド指定)

**2** サーチキー[21]を押す

<バンド1を指定した場合の例>

アッチネータ フライオリティ  
① サーチ

[B-SRCH]とバンドNo.が点灯し、バンドサーチが始まります。



サーチが停止すると、バンドNo.が点滅します。

解除するときは、もう1度サーチキー[21]を押してください。[B-SRCH]が消えます。

- サーチが停止中(受信中)にダイヤルツマミ[8]や△キー[2]、マキー[3]を操作すると方向が指定され、再びサーチが始まります。
- ① ② ③ ④ サーチと複数(最大4つ)のバンドNo.を指定した場合は、指定した順番にかかわらず、バンドNo.の低い順にサーチされます。(0はバンド10を示します)
- 指定されたバンドの全周波数がサーチパス登録(24ページ)されていると、数秒後「ピポポ」と鳴り、[ALL PASS]が約1秒間表示され、操作する前の状態に戻ります。
- バンドの初期登録内容は変更することができます。(「サーチバンド内容を登録(変更)する」43ページ)
- バンドサーチ中に周波数ステップや受信モードの変更が行われた場合は、次のバンドに移るまでの間、変更した周波数ステップや受信モードでバンドサーチが行われます。

# サーチパスメモリー

常に雑音が出ているなど、不要な周波数をサーチパスとして登録しておく、サーチ中にパス(受信しない)ができますので、効率的にサーチさせることができます。

## サーチパスに登録する

- 1 パスしたい周波数を受信する  
VFOモードや各サーチモードで受信します。



- 2 機能キー[24]を押す  
【FUNC】が点灯します。

- 3 クリアーキー[27]を押す

“ピピ”と鳴り、受信中の周波数(周波数ステップと受信モードを含む)がサーチパスに登録されて再びサーチが始まります。(次のサーチからは受信しなくなります)

- 最大100まで登録できます。すべて登録されているときは、“ピポポ”と鳴り、登録を受け付けません。【FULL】が約1秒間表示されます。

Full

## サーチパスメモリーリードする

登録しているサーチパスメモリーを呼び出して確認することができます。

VFOモードや各サーチモードで受信します。

- 1 機能キー[24]を押す  
【FUNC】が点灯します。

- 2 数字キー(0)[20]を押す  
【P】が点滅します。

VFOモードから操作したときは受信中の周波数より高い周波数方向にサーチして、最も低いサーチパスされた周波数から順に呼び出して受信します。

またサーチモードで受信中に操作を行ったときは、サーチ方向で一番近いサーチパス周波数を呼び出します。



- サーチパスに何も登録されていないと、“ピポポ”と鳴り、【null】が約1秒間表示され操作する前の状態に戻ります。

- 3 確認したいサーチパスメモリーを選ぶ  
ダイヤルツマミ[8]や△キー[2]、▽キー[3]で選びます。

△キーまたは▽キーを約1秒以上押し続けると、早送りまたは早戻しができます。

サーチパスメモリーリードを解除するときは、クリアーキー[27]を押すか、もう1度手順1、2を行ってください。サーチパスメモリーリードする前の状態に戻ります。

## サーチパス登録を解除する

サーチパスに登録した周波数を呼び出して、サーチパス登録を解除することができます。

- 1 解除したい周波数を呼び出す  
サーチパスメモリーリードで呼び出します。

- 2 機能キー[24]を押す  
【FUNC】が点灯します。

- 3 クリアーキー[27]を押す  
“ピ”と鳴り、呼び出した周波数がサーチパスから解除されます。

- 解除すると、その周波数より1つ高い周波数のサーチパスが表示されます。
- すべてのサーチパスを解除すると、“ピポポ”と鳴り、【null】が約1秒間表示されサーチパスメモリーリードする前の状態に戻ります。

null

# チャンネルメモリー

次ページに続く▶

よく聞くチャンネル(無線局)などは、周波数や周波数ステップ、受信モードなどの情報を含めチャンネルメモリーとして登録しておくことができます。

登録したチャンネルメモリーは、自動的に呼び出し(スキャン)で受信することができます。(30ページ)

## 登録できる内容

チャンネルごとに以下の内容が登録できます。

- 受信周波数
- 周波数ステップ
- 受信モード
- スキャンパス登録の設定/解除(28、29ページ)

## チャンネルメモリーに登録する

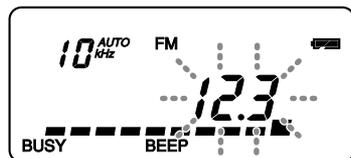
### 1 登録したい周波数を受信する

VFOモードや各サーチモードで受信します。



### 2 チャンネル番号を入力する

数字キーを押して、その周波数にチャンネル番号(0~509までの間)を入力します。



- チャンネル番号の500~509チャンネルは、プライオリティチャンネル(32ページ)への登録となります。
- チャンネル番号を入力せずに登録することもできます。そのときのチャンネル番号は、自動的に以前、最後に表示されたチャンネル番号の次の番号になります。(プライオリティチャンネルを除く)
- 再度、同じチャンネル番号に登録すると、登録内容は更新されます。ただし、すでに登録されているチャンネルにスキャンパス登録(28ページ)がされている場合には、その登録を解除して上書きされます。

### 3 機能キー[24]を押す

[FUNK]が点灯します。

### 4 スキャンキー[22]を押す

"ビビ"と鳴り、登録したチャンネル番号が約1秒間表示されます。



- 登録終了後は、チャンネル番号を入力する前の表示に戻ります。
- 適切でないチャンネル番号が入力されて登録されたときは、"ビボボ"と鳴り、[Error]が約1秒間表示された後、操作を行う前の状態に戻ります。



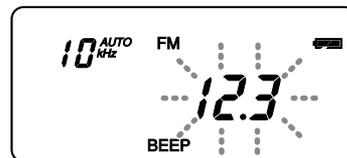
## チャンネルメモリーリード<チャンネルメモリーの呼び出し>

登録しているチャンネルメモリーを呼び出して受信することができます。

### 1 呼び出したいチャンネル番号を入力する

数字キーを押して、チャンネル番号(0~509)を入力します。

500~509チャンネルを指定すると、プライオリティチャンネル(32ページ)を呼び出します。



### 2 メモリードキー[23]を押す

選んだチャンネル番号のチャンネルメモリーを呼び出して受信します。



- 選んだチャンネル番号に何も登録されていないときは、周波数が000.000.0の表示になりますが、操作前に受信していた周波数を受信し続けます。
- チャンネル番号を入力しないで呼び出すと、以前、最後に呼び出されたチャンネルメモリー(カレントチャンネルNo.)が呼び出されます。
- 適切でないチャンネル番号が入力されて呼び出されたときは、"ビボボ"と鳴り、[Error]が約1秒間表示され、操作を行う前の状態に戻ります。

### 3 他のチャンネルメモリーを選ぶ

ダイヤルつまみ[8]や△キー[2]、▽キー[3]で選びます。

△キーまたは▽キーを1秒以上押し続けると、早送りまたは早戻しができます。

チャンネルメモリーの呼び出しを解除するとき、メモリードキー[23]を押してください。チャンネルメモリーの呼び出しをする前のVFOモードになります。

## チャンネルメモリーの登録を削除する

### 1 削除したいチャンネルメモリーを呼び出す

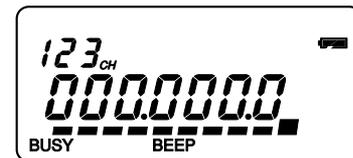
チャンネルメモリーリードで呼び出します。

### 2 機能キー[24]を押す

[FUNK]が点灯します。

### 3 スキャンキー[22]を押す

"ビビ"と鳴り、チャンネルメモリーから削除され、周波数が000.000.0の表示になります。(受信は続きます)



- スキャン(30、31ページ)受信中にも上記の操作ができます。その場合は、チャンネルメモリーから削除した後、スキャンを再開します。
- メモリー登録していないチャンネルを呼び出し、上記の操作をしたときは"ビボボ"と鳴り、受け付けません。

## チャンネルメモリーの周波数をVFOモードへコピーする

呼び出したチャンネルメモリーの周波数をそのままVFOモードにコピーし、VFOモードで受信できます。

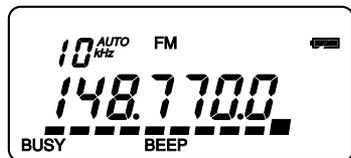
### 1 コピーしたいチャンネルメモリーを呼び出す

チャンネルメモリーリードや各スキャンで受信します。

### 2 機能キー[24]を押す [FUNC]が点灯します。

### 3 数字キー(7)[17]を押す

チャンネルメモリーの周波数がコピーされ、VFOモードになります。



- 周波数だけでなく、周波数ステップ、受信モード、オートモードの設定などチャンネルメモリーに登録されている内容もコピーされます。
- プライオリティチャンネルをコピーすることもできます。
- メモリー登録されていないチャンネルを呼び出し、上記の操作をした場合は、「ビボボ」と鳴り受け付けません。

## スキャンパスに登録する

チャンネルメモリーにスキャンパスを登録しておく、スキャン中に受信をパスすることができます。

### 1 パスしたいチャンネルメモリーを呼び出す

チャンネルメモリーリードで呼び出します。(各スキャンで受信にも登録できます)

### 2 機能キー[24]を押す [FUNC]が点灯します。

### 3 クリアーキー[27]を押す

“ビ”と鳴り、呼び出したチャンネルメモリーにスキャンパスが登録され、[CH]が点滅します。

次のスキャンから受信しなくなります。



- プライオリティチャンネルはスキャンパスの登録ができません。
- スキャンパスが登録されているチャンネルメモリーも、チャンネルメモリーリードで呼び出すことができます。そのときは[CH]が点滅します。
- スキャン停止中に、受信中のチャンネルメモリーをスキャンパスに登録すると、再びスキャンが始まります。また、チャンネルメモリーがすべてスキャンパスに登録されると、「ビボボ」と鳴り、[ALL PASS]が約1秒間表示され、最後にスキャンパスしたチャンネルでメモリーリードとなります。



## スキャンパス登録を解除する

登録したスキャンパスを解除することができます。

### 1 解除したいチャンネルメモリーを呼び出す

チャンネルメモリーリードで呼び出します。

### 2 機能キー[24]を押す [FUNC]が点灯します。

### 3 クリアーキー[27]を押す

“ビ”と鳴り、呼び出したチャンネルメモリーのスキャンパス登録が解除されます。



- [CH]の点滅が点灯に変わります。

# スキャン(チャンネルメモリスキャン)

スキャンは、あらかじめ登録したチャンネルメモリーを順に呼び出しながら、自動的に無線局を探す機能です。

## スキャンについて

本機には、連続スキャン、バンクスキャンの2種類のスキャン機能があります。

バンクスキャンは、大容量のチャンネルメモリーを効率よくスキャンするため、50チャンネルを1バンクとしてまとめて、スキャンする機能です。本機は、10バンク最大500チャンネルの登録ができます。

チャンネル番号	区分	バンク指定キー
000~049	1	(1)
050~099	2	(2)
100~149	3	(3)
150~199	4	(4)
200~249	5	(5)
250~299	6	(6)
300~349	7	(7)
350~399	8	(8)
400~449	9	(9)
450~499	0	(0)

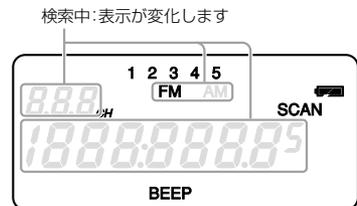
- バンク0の450~449チャンネルは、オートメモリーライト用メモリーチャンネルと兼用です。(「オートメモリーライト機能」42ページ)

## 連続スキャンするく全チャンネルスキャン

登録したすべてのチャンネルメモリーを、チャンネル番号の小さい順からスキャンして、無線局を見つけると自動的に受信します。

### スキャンキー[22]を押す

[SCAN]の表示とスキャン可能なバンクNo.が点灯し、スキャンが始まります。またスキャンが停止すると、受信中のチャンネルNo.が点灯し、チャンネル番号に対応したバンクNo.が点滅します。



<バンク1~5にチャンネルメモリー登録がされている場合の例>

解除するときは、スキャンキー[22]またはメモリーロードキー[23]を押してください。[SCAN]とバンクNo.が消え、チャンネルメモリーリードになります。

- チャンネルメモリーリード中にスキャンキー[22]を押すと、呼び出しているチャンネルより1つ高いチャンネルから順にスキャンします。
- 受信中に約2秒以上電波が途切れると、再びスキャンを始めます。
- 何もメモリーされていない状態でスキャンキー[22]を押した場合は、「ピポポ」と鳴り、[null]が約1秒間され、操作を行う前の状態に戻ります。
- チャンネルメモリーがすべてスキャンパス登録されている場合は、「ピポポ」と鳴り、[ALL PASS]が約1秒間され、操作を行う前の状態に戻ります。

## スキャンの方向を変える

ダイヤルツマミ[8]や△キー[2]、▽キー[3]を操作する

チャンネル番号の大きい方へスキャン  
ダイヤルツマミ[8]を右に回す  
△キー[2]を押す



チャンネル番号の小さい方へスキャン  
ダイヤルツマミ[8]を左に回す  
▽キー[3]を押す



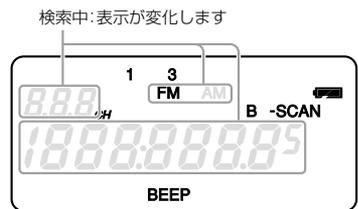
- スキャンが停止中(受信中)に、ダイヤルツマミ[8]や△キー[2]、▽キー[3]を操作すると、方向が指定され、再びスキャンが始まります。

## バンクスキャンするくバンク指定スキャン

指定したバンクの中にあるチャンネルメモリーを小さい順にスキャンします。

**1** 数字キーを押して、聞きたいバンクを指定する(バンク指定)  
最大4つのバンクが指定できます。

**2** スキャンキー[22]を押す  
[B-SCAN]と指定されたバンク内でスキャン可能なバンクNo.が点灯し、スキャンが始まります。



<バンク1、3を指定してスキャンした場合の例>

スキャンが停止すると受信中のチャンネル番号が点灯し、チャンネル番号に該当するバンクNo.が点滅します。

解除するときは、スキャンキー[22]またはメモリーロードキー[23]を押してください。[B-SCAN]が消え、チャンネルメモリーリードになります。

- バンク指定した順番にかかわらず、チャンネル番号の小さい順にスキャンされます。
- バンク指定したすべてのチャンネルで、チャンネルメモリー登録されていないときは、「ピポポ」と鳴り、[null]が約1秒間され、操作を行う前の状態に戻ります。
- 指定されたバンクの全チャンネルメモリーがスキャンパスに登録されていると、「ピポポ」と鳴り、[ALL PASS]が約1秒間表示され、操作を行う前の状態に戻ります。

# プライオリティ

VFOモードや、各種のサーチ、スキャン、チャンネルメモリーリードで受信中に、あらかじめプライオリティチャンネルに登録したチャンネルを約5秒間隔でチェックします。

## プライオリティチャンネルに登録する

プライオリティチャンネルは、チャンネル番号の500ch～509chにメモリーして登録されません。

### 1 登録したい周波数を受信する

### 2 チャンネル番号を入力する

数字キーを押して、500～509の間で番号を入力します。

### 3 機能キー[24]を押す

[FUNC]が点灯します。

### 4 スキャンキー[22]を押す

"ピピッ"と鳴り、登録したチャンネル番号が約1秒間表示されます。プライオリティチャンネルは最大10チャンネルまで登録できます。



チャンネル番号	表示
500CH	P0
501CH	P1
502CH	P2
}	
508CH	P8
509CH	P9

登録終了後は、チャンネル番号を入力する前の状態に戻ります。

登録を削除するときは、チャンネルメモリーリードで呼び出し、手順3、4を行います。

●工場出荷時のプライオリティチャンネル[P0]には350.1MHz(FM)が登録されています。

## 数字キーを使ってプライオリティ受信する

数字キーを使って最大4チャンネルを指定することができます。

### 1 指定したいチャンネル番号を入力する

数字キーを押して、チャンネル番号(500～509)を入力します。

数字キー	指定されるチャンネル番号
0	500CH
1	501CH
2	502CH
}	}
8	508CH
9	509CH

- 入力した順番にかかわらず番号の小さいチャンネル番号からチェックします。
- チャンネル番号の入力を省略することもできます。そのときはすべてのプライオリティチャンネルをチェックします。

### 2 機能キー[24]を押す

### 3 サーチキー[21]を押す

[PRI]が点灯し、プライオリティ受信が始まり、5秒ごとにプライオリティチャンネルをチェックし、電波があるときは優先して受信します。

解除するときは、手順2、3を行ってください。[PRI]の表示が消えます。

●指定したすべてのチャンネル番号にプライオリティチャンネルが登録されていない場合は、"ピポポ"と鳴り、[null]が約1秒間表示され、操作を行う前の状態に戻ります。

# 周波数ステップを変更する

VFOモードとサーチモード中に周波数ステップを変更することができます。秘話解読機能(41ページ)は解除しておきます。

### 1 機能キー[24]を押す

[FUNC]が点灯します。

### 2 数字キー(2)[12]を押す

[AUTO]または現在の周波数ステップ(数値と単位)が点滅します。

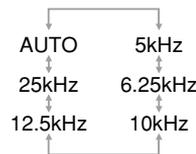


<初期状態(オートモード)から手順1、2の操作をした場合の例>

### 3 周波数ステップを選ぶ

ダイヤルつまみ[8]やΔキー[2]、▽キー[3]で選びます。

受信モードにより変更できる周波数ステップが異なります。



●周波数ステップの変更は秘話解読機能(41ページ)を解除した状態で行ってください。[SCR]が表示された状態から上記のダイヤルつまみ[8]操作を行った場合では、周波数ステップの変更はできません。

操作を途中でやめる場合は、クリアキー[27]または再度上記1、2の操作を行ってください。

キー操作の途中でも、10秒以内に決定キー[25]が押されない場合や、電源のON/OFFの操作が行われた場合には、周波数ステップ選択操作が解除され、機能キー[24]が押される前の状態に戻ります。

### 4 決定キー[25]を押す

周波数ステップが点灯し、周波数ステップが変更されます。



<初期状態(オートモード)から10kHzステップに変更した場合の例>

- 周波数表示部の数値(周波数)が、選択した周波数ステップで割り切れない場合は、周波数ステップに合った周波数に変更されます。
- AUTOを選択すると周波数ステップの数値と単位の表示が消え、[AUTO]が点滅します。続けて決定キー[25]を押すと、周波数に適した周波数ステップが設定され、その周波数ステップ(数値と単位)と[AUTO]が点灯します。

オートモード時点灯



●バンドサーチ中に周波数ステップを変更した場合は、次のバンドに移る間での間、変更した周波数ステップでサーチが行われます。

その他の機能

# 受信モードを変更する

VFOモードとサーチモード中に受信モードを変更することができます。

秘話解読機能(41ページ)は解除しておきます。

## 1 機能キー[24]を押す

[FONO]が点灯します。

## 2 数字キー(3)[13]を押す

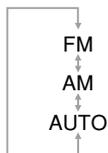
[AUTO]または現在の受信モードが点滅します。



<初期状態(オートモード)から手順1、2の操作をした場合の例>

## 3 受信モードを選ぶ

ダイヤルつまみ[8]や△キー[2]、▽キー[3]で選びます。



- 受信モードの変更は秘話解読機能(41ページ)を解除した状態で行ってください。[SCR]が表示された状態から上記のダイヤルつまみ[8]操作を行った場合では、受信モードの変更はできません。

操作を途中でやめる場合は、クリアキー[27]または、再度手順1、2の操作を行ってください。

キー操作の途中でも、10秒以内に決定キー[25]が押されない場合には、機能キー[24]が押される前の状態に戻ります。

## 4 決定キー[25]を押す

受信モードが点灯し、受信モードが変更されます。

また周波数ステップと周波数表示部の数値も、受信モードに適した周波数に変更されます。



<初期状態(オートモード)からFMモードに変更した場合の例>

- AUTOを選択すると受信モード表示部の表示が消え、[AUTO]が点滅します。続けて決定キー[25]を押すと、適した受信モードと周波数ステップが設定され、[AUTO]が点灯します。

オートモード時点灯



- バンドサーチ中に受信モードを変更した場合は、次のバンドに移るまでの間、変更した受信モードでバンドサーチします。

# 無線式盗聴器の探し方

次ページに続く

## 盗聴器周波数をサーチする<特定周波数サーチ>

MVT-3400には、無線式盗聴器で多く使用されている周波数141chをメモリーしてあります。この周波数は以下の操作でサーチ(受信)できます。

## 1 盗聴波受信モードキー[29]を押す

受信

[bus]が表示され、盗聴周波数サーチが始まります。電波を受信するとサーチを停止(受信)し、電波が2秒以上途切れれば再びサーチを始めます。

検索中:表示が変化します



- 本機は、無線式の盗聴器で多く使用されている141チャンネルをメモリーしていますが、周波数を変えた盗聴器を取り付けられる場合があります。また、正常な目的に使用されている無線局や、2次的に出てくる電波(ノイズ)もあり、受信したからといってすべてが盗聴器とは限りません。

## 2 サーチの方向を変える

ダイヤルつまみ[8]や△キー[2]、▽キー[3]を操作する

### 周波数の大きい方へサーチ

ダイヤルつまみ[8]を右に回す  
△キー[2]を押す



### 周波数の小さい方へサーチ

ダイヤルつまみ[8]を左に回す  
▽キー[3]を押す



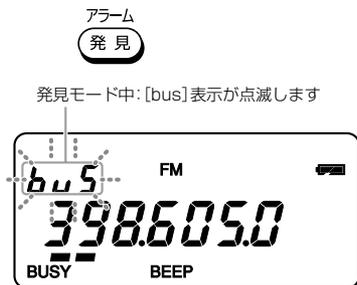
- サーチが停止中(受信)に、ダイヤルつまみ[8]や△キー[2]、▽キー[3]を操作すると、方向が指定され、再びサーチが始まります。

解除するときは、もう1度盗聴波受信モードキー[29]を押してください。[bus]の表示が消え、操作する前の状態に戻ります。

- 盗聴器周波数は、サーチパス(24ページ)に登録することができます。ただし、盗聴器周波数サーチ中のサーチパスメモリーは、他のモードに移ると解除され、再度盗聴器周波数サーチに移行したときは、全チャンネルのサーチを行います。また、サーチパスメモリーリードはできません。

## 盗聴電波を発見する&lt;盗聴波発見モード&gt;

盗聴器周波数を受信中(特定周波数サーチでサーチが停止中)に以下の操作をすることで、おおよその電波の発信源を探ることができます。

1 盗聴波発見モードキー $\text{[30]}$ を押す

- 盗聴波発見モードキー $\text{[30]}$ を押すと、その周波数で継続受信(次のサーチへの移行を停止)します。また、受信電波の信号レベルの自動減衰機能が働きます。

## 2 おおよその発信源を探す

発見モード中に家庭電源のコンセントや壁、置き時計など盗聴器が仕掛けられている可能性のある器具や家具に近づけながら受信場所を移動し、受信レベル(Sメータ)の強く振れる場所を探します。



- 特定周波数サーチに戻る場合には、再度、盗聴波受信モードキー $\text{[29]}$ を押します。

## 盗聴器を発見する&lt;盗聴波発見アラームモード&gt;

盗聴波発見モードで、受信レベル(Sメータ)が強く振れる場所・箇所を探し、以下の操作で、無線式盗聴器(発信源)を特定できます。特定周波数サーチで、サーチ停止中でも操作できます。

1 機能キー $\text{[24]}$ を押す

$\text{[FON]}$ が点灯します。

2 盗聴波発見モードキー $\text{[30]}$ を押す

アラームモードになります。

- アラームモードにすると、受信信号の強度によりアラームがなります。
- アラームモード中は信号レベルの自動減衰機能が働きます。

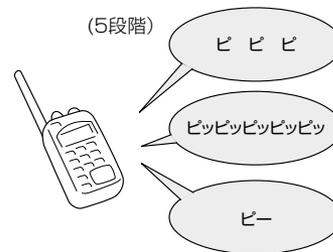
アラームモードを解除するときは、もう1度、盗聴波受信モードキー $\text{[29]}$ または盗聴波発見モードキー $\text{[30]}$ を押します。特定周波数サーチまたは継続受信に戻ります。

- 無線を使っていない機器(蛍光灯、コンピューター、テレビ、ファックス、電子レンジなど)からも副次的な電波が出ています。あらかじめ調査する部屋の中で音楽などを鳴らした状態で盗聴器周波数サーチを行い、受信内容(無線式盗聴器が仕掛けられている可能性)を確認してから発信源を探すのが有効です。

具体的な無線式盗聴器の探し方については、次のページをご覧ください。

## 3 無線式盗聴器(発信源)を探す

盗聴波発見モードで、受信レベル(Sメータ)の強く振れた場所・箇所にアンテナを近づけ、強くアラームが鳴る方向、箇所(発信源)を特定します。



### 1 室内に仕掛けられた盗聴器を探す

- 1 調査する部屋の中で、CD、テープなどの音楽を再生し、室内に常時音が出ている状況にする。
- 2 MVT-3400で盗聴器周波数をサーチする。(「盗聴器周波数のサーチ」(35ページ)をご覧ください)
- 3 サーチが停止して電波を受信したときには、MVT-3400のスピーカーから出ている音と、室内の音楽が一致しているかを確認する。
- 4 室内の音楽を変えてみて、MVT-3400のスピーカーから出ている音が変わるかを確かめる。



※特定周波数のすべてのチャンネルをサーチし、上記の確認を行います。(サーチパス機能を使うと効率的な確認ができます)

#### <アドバイス>

室内の音がMVT-3400で受信できる場合には、無線式盗聴器が仕掛けられている可能性があります。また、部屋の中で再生している音楽がMVT-3400から聞こえ、ハウリング(MVT-3400のスピーカーから「ワーン」という音や「ブーン」という音)が発生する場合は、その部屋に無線式盗聴器が仕掛けられている可能性が高いといえます。

### 2 電話機に仕掛けられた盗聴器を探す

- 1 電話機の受話器を上げ、「時報(117)」または「天気予報(177)」に電話をかける。
- 2 MVT-3400で盗聴器周波数をサーチする。
- 3 サーチが停止して電波を受信したときには、MVT-3400のスピーカーから出ている音と、電話機の受話器から出ている音声が一致しているかを確認する。
- 4 違う電話番号サービスにかけ直して、MVT-3400のスピーカーから出ている音声がかわるかを確かめる。



- コードレス電話の場合は、子機との通信に電波を使用しています。この電波を受信している場合もありますので、確認を行う際は親機側(無線式でないもの)で電話をかけて1~3の操作をしてください。

#### <アドバイス>

電話器からの音声がMVT-3400で受信できる場合には、無線式盗聴器が仕掛けられている可能性があります。

### 3 盗聴器が仕掛けられている可能性があるときには

室内や電話機に盗聴器が仕掛けられている可能性がある場合には、おおよその場所(部屋)を特定した後、その場所へ移動し、「盗聴器周波数サーチ」で受信中に次の操作をして確認してください。(調査する部屋の中で音楽などを鳴らしておきます)

- 1 盗聴波発見モードキー $\text{30}$ を押す。

発見

- 2 おおよその電波の発信源を探す。

発見モード中に、家庭電源のコンセントや壁、置き時計など盗聴器が仕掛けられている可能性のある器具や家具にMVT-3400を近づけながら受信場所を移動し、受信レベル(Sメーター)の強く振れる場所・箇所を探します。



#### <アドバイス>

- 特定周波数のすべてのチャンネルをサーチし、上記の確認を行います。(サーチパス機能を使うと効率的な確認ができます)
- 受信レベル(Sメーター)の強く振れる場所に、無線式盗聴器が仕掛けられている可能性があります。また強いハウリングが発生する場合はその付近に無線式盗聴器が仕掛けられている可能性があります。

### 4 盗聴器が仕掛けられている場所を探す

盗聴波発見モードでおおよその電波の発信源が確認できたら、さらに、盗聴波発見アラームモードに設定し、その箇所にMVT-3400のアンテナを近づけ、強くアラームの鳴る方向、箇所(発信源)を特定します。

- 1 機能キー $\text{24}$ を押す。
- 2 盗聴波発見モードキー $\text{30}$ を押す。

機能

発見

盗聴波発見アラームモードになります。

- 3 強くアラームが鳴る箇所を特定する。

#### <アドバイス>

- 調査は、必ず「盗聴器周波数サーチ」で確かめてから行ってください。無線を使っていない機器(蛍光灯、コンピューター、テレビ、ファックス、電子レンジなど)からも副次的な電波が出ています。
- 盗聴器は無線式だけではなく、また、無線式であっても周波数を変えて取り付けられる場合もありますので、盗聴器の発見には専門知識が必要です。盗聴器の有無や発見の調査は、専門の調査会社にご用命ください。

# デュプレックス受信する

決められた2つの周波数を使い交信(デュプレックス交信)している無線局を受信するときに、その2つの周波数をワンタッチで切り換えて聞くことができます。

例) 国際マリンバンドでの船舶と海岸局の間の交信を受信する場合、船舶の周波数を受信中に、海岸局側の周波数に切り換えて聞くことができます。

国際VHFマリンバンドの周波数は  
船舶局：156.0~157.425MHz  
海岸局：160.6~162.025MHz  
に割り当てられています。

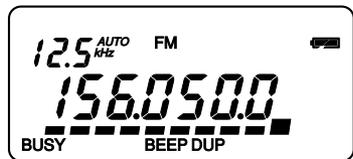
## デュプレックスモードに設定する

### 1 機能キー[24]を押す

[FUNC]が点灯します。

### 2 小数点キー(.)[26]を押す

[DUP]が点灯し、デュプレックスモードになります。



<156.05MHzを受信中にデュプレックスモードを設定した場合の例>

解除するときは、もう1度手順1、2を行ってください。[DUP]が消えます。

- デュプレックス交信では、2つの周波数の間隔(シフト幅)が電波法で決められています。MVT-3400では、受信できる周波数の中で、定められているシフト幅を、あらかじめプリセットしています。(シフト幅の一覧については、49、50ページをご覧ください)

## デュプレックス交信を受信する

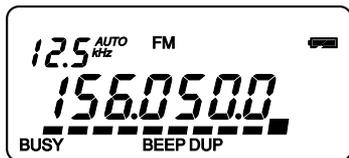
### 1 [DUP]の点灯を確認する

### 2 モニターキー[4]を押す

押し続けている間は[DUP]が点滅し、もう一方の周波数が聞けます。

放すと元の周波数が聞けます。

<受信中の周波数>



<もう一方の周波数>  
(モニターキーを押している間)

- デュプレックス受信はVFOモード、チャンネルメモリーリード時、または、サーチやスキャンで受信中にはたらく機能です。
- デュプレックス交信をしていない無線局を受信中でもデュプレックスモードに設定することはできませんが、これらのシフト幅がプリセットされていない周波数では、モニターキー[4]を押しても周波数シフトできません。このようなときには、モニター機能としてはたらくします。(44ページ)
- デュプレックス機能がはたらいている間(モニターキーを押している間)はスケルチを開き、サーチやスキャンモードの受信中に信号が途切れても、サーチやスキャンをはじめません。

# 音声反転(スクランブル)の秘話交信を聞く

小電力コードレスなどの秘話機能には、音声を変転させて送信し、受信した後、もう1度反転させて通常の音声に戻す方式が多く使われています。それらの電波は、音声反転しているため、通常の音声として聞くことができません。MVT-3400では、反転された音声の電波を受信した場合でも、通常の音声に戻して聞くことができます。

秘話交信を聞けるのは、受信モードがFMのときのみです。それ以外の受信モードでは機能しません。

### 1 音声反転の秘話交信を受信中に、秘話解読キー[28]を押す

[SCR]が点灯し、秘話交信が通常の音声に戻されて、通話が聞こえます。



### 2 ダイヤルつまみ[8]を回し、聞き取りやすく調節する

- 音声反転以外の秘話交信を通常の音声として聞くことはできません。
- 音声反転の交信は、音質が変わることがあります。
- 通常の音声を知るときは、秘話解読キー[28]を押さないでください。
- スクランブル交信受信後は秘話解読機能を解除してください。

解除するときは、もう1度秘話解読キー[28]を押してください。[SCR]が消えます。

FMモードで[SCR]が表示されているときは、ダイヤルつまみで受信周波数を切り換えることや、チャンネルメモリーの移動、サーチやスキャンの移動などはできません。

- AMモードでも秘話解読キー[28]を受け付けませんが機能しません。

# サーチやスキップの付加機能

## スキップ機能

サーチやスキップの停止後、受信中であっても、約4秒後にサーチやスキップを再開するように設定できます。

### 1 機能キー[24]を押す

[FUNC]が点灯します。

### 2 数字キー(4)[14]を押す

[SKIP]が点灯します。サーチやスキップを行うと、スキップ機能がはたらきます。



解除するときは、もう1度手順1、2を行ってください。[SKIP]が消えます。

- プライオリティチャンネルを受信中は、はたらかせません。

## オートメモリーライト機能

サーチで受信した周波数を、チャンネルメモリーに自動的に登録することができます。登録できるチャンネルは、バンク(0)内の450~499の50チャンネルです。

### 1 VFOモードにする

「VFOモードにする」(18ページ)をご覧ください。

### 2 機能キー[24]を押す

[FUNC]が点灯します。

### 3 数字キー(8)[18]を押す

[AW]が点灯します。

### 4 VFOサーチ(21ページ)またはバンドサーチ(22ページ)をする



- サーチで受信中に手順2、3の操作をすることもオートメモリーライトとなります。
- オートメモリーライトを開始するとバンク(0)の登録内容がすべて消去されてサーチが始まりますのでご注意ください。
- サーチが始まり、信号を受信すると“ビ”と鳴り、メモリー登録します。
- メモリー登録をすると、メモリーチャンネル番号を約1秒間表示してから、サーチを再開します。
- オートメモリーライトは、チャンネル番号450から順にチャンネルメモリーに登録し、50チャンネルすべてに登録すると“ビビ”と鳴り、オートメモリーライトとサーチを終了し、VFOモードになります。
- オートメモリーライト中にすでに登録済みの同一周波数があった場合は、メモリー登録せず、1秒後にサーチを開始します。
- サーチ受信中にクリアキー[27]が押されたときは、そのメモリー登録を削除してサーチを開始します。
- オートライト中に手順2、3を行ったときや、スキップなど、サーチ以外のモードにした場合はオートメモリーライトを途中で中止し、オートライト機能が解除されます。

# サーチバンドの内容を登録(変更)する

## サーチバンドメモリー

VFOモード中に、サーチするバンド内容の登録や変更ができます。1~9と0のバンドには、特定のバンド内容が登録されていますが、バンド内容を変更することもできます。

### 1 機能キー[24]を押す

[FUNC]が点灯します。

### 2 メモリーリードキー[23]を押す

バンド1のバンドNo.が点滅し、下限周波数、上限周波数が交互に表示されます。



### 3 登録(変更)したいバンドを選ぶ

ダイヤルツマミ[8]や△キー[2]、▽キー[3]で選びます。

- 途中で中止するときは、クリアキー[27]を押します。

### 4 決定キー[25]を押す

下限周波数が表示されます。

### 5 数字キーで下限周波数を入力する

周波数表示部に下限周波数が表示されます。

### 6 決定キー[25]を押す

下限周波数が確定し、周波数表示部に上限周波数が表示されます。

### 7 数字キーで上限周波数を入力する

周波数表示部(下)に上限周波数が表示されます。

### 8 決定キー[25]を押す

入力された周波数は周波数ステップにより調整されて登録されます。このとき、周波数ステップ/チャンネルメモリー表示部の[AUTO]が点滅します。

- 上限周波数と下限周波数を入力中に、クリアキー[27]を2回押すと、手順2に戻ります。

### 9 オートモードに設定する/しないを選ぶ

AUTOに設定する

#### 1. 決定キー[25]を押す

“ビビ”と鳴り、下限周波数、上限周波数が交互に数秒間表示された後“ビ”と鳴りサーチバンドの登録が完了します。登録が完了するとサーチバンドメモリー操作をする前の表示に戻ります。

- 上限周波数が下限周波数より小さい場合は、[Err or]が約1秒間表示され、手順2に戻ります。

AUTOに設定しない

#### 1. クリアキー[27]を押す

受信モードが点滅します。

#### 2. 受信モードを選び決定キー[25]を押す

ダイヤルツマミ[8]や△キー[2]、▽キー[3]で選択し決定キー[25]を押すと周波数ステップ(数値と単位)が点滅します。

#### 3. 周波数ステップを選び決定キー[25]を押す

ダイヤルツマミ[8]や△キー[2]、▽キー[3]で選択し決定キー[25]を押すと“ビビ”と鳴り下限周波数、上限周波数が交互に数秒間表示された後“ビ”と鳴りサーチバンドの登録が完了します。登録が完了するとサーチバンドメモリー操作をする前の表示に戻ります。

- 上限周波数が下限周波数より小さい場合は、[Err or]が約1秒間表示され、手順2に戻ります。

## モニター機能

受信中の電波が弱く、音が途切れて聞こえるときなどに、聞き取りやすくすることができます。

### モニターキー<sup>4</sup>を押す

押している間、モニター機能がはたらき聞き取りやすくなります。

放すと元の状態に戻ります。

- 各種サーチ/スキャン中にモニターキー<sup>4</sup>を押すと、押している間サーチ/スキャンが停止します。
- スケルチ調整中は、モニターキー<sup>4</sup>を押さないでください。
- デュープレックスが設定されているときは、違うはたらきをします。(40ページ)
- モニター機能は、盗聴波発見モード中や盗聴波発見アラームモードでは、無効となります。(36、37ページ)

## ランプ機能

ディスプレイとキーの照明機能です。以下の操作により、5秒間点灯と常時点灯を設定することができます。

### 機能キー<sup>24</sup>を押した後、△キー<sup>2</sup>を押したとき

ランプが約5秒間点灯します。点灯中に各キーやダイヤルを操作すると、最後の操作から約5秒間、ランプが点灯します。

- 電源ボタン<sup>1</sup>、音量ツマミ<sup>6</sup>、スケルチツマミ<sup>7</sup>を操作しても、ランプは点灯を継続(5秒間)しません。

### 機能キー<sup>24</sup>を押した後、▽キー<sup>3</sup>を押したとき

[☆]が点灯し、ランプが点灯したままになります。



解除するときは、もう1度上記の操作を行ってください。ランプと[☆]表示が消えます。

## ビープ音の切り換え

キー操作をしたときに、確認のため、次のような操作音(ビープ音)が鳴ります。工場出荷時は鳴るように設定されていますが、この音を消すことができます。

キー操作	ビープ音
キーを押したとき	"ピ"
登録完了	"ビビ"
操作が正しくないとき	"ピポポ"

### 1 機能キー<sup>24</sup>を押す

[FUNC]が点灯します。

### 2 数字キー(5)15を押す

[BEEP]が消え、操作音が鳴らなくなります。



ビープ音を鳴らすときは、もう1度手順1、2を行ってください。[BEEP]が点灯します。

## キーロック機能

誤動作などを防止するため、キー操作とダイヤルツマミの操作を無効にすることができます。ただし、ロック中でも電源ボタンとキーロックの解除操作、ランプ機能および音量ツマミ、スケルチツマミは操作できます。

### 1 機能キー<sup>24</sup>を押す

[FUNC]が点灯します。

### 2 モニターキー<sup>4</sup>を押す

[]が点灯し、ロックに設定されます。



解除するときは、もう1度手順1、2の操作を行ってください。[]が消えます。

## アッテネーター機能

テレビ放送局などの強い電波の影響で、混信や雑音といった障害を受けるときに、聞き取りやすくすることができます。

- 機能キー[24]を押す  
[FUNC]が点灯します。
- 数字キー(1)[11]を押す  
[ATT]が点灯し、アッテネーターが設定されます。



解除するときは、もう1度手順1、2を行ってください。[ATT]が消えます。

- アッテネーターを設定したときの減衰量は約15dBです。
- アッテネーターを設定したままでは、弱い電波の受信ができなくなります。必要な場合のみ設定してください。
- VFOサーチやバンドサーチ中、スキャンや特定周波数サーチ中にアッテネーターの設定を行うこともできます。

## クローン機能

メモリー内容を、他のMVT-3400にコピーすることができます。

- 電源をOFFにした2台のMVT-3400のEAR端子間を、市販の3.5φステレオミニプラグコードで接続する



3.5φステレオミニプラグ(市販のもの)  
※抵抗入りのものは使用できません。

- 2台のMVT-3400の電源をONにして、VFOモードにする
- 次の順に数字キーと機能キー[24]、クリアーキー[27]を押す(2台とも設定します)



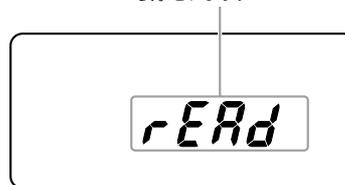
クローンモードになります。

周波数表示部に COPY と表示されます。



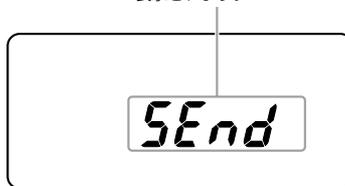
- 受け側のMVT-3400のクリアーキー[27]を押す。

周波数表示部に rEAd と表示されます。



- 次に送り側のMVT-3400の決定キー[25]を押す

周波数表示部に SEnd と表示されます。



- 手順1~5の操作でコピーが始まり、Sメーターの点灯数が時間とともに増え、メモリーデータの転送の状況を示します。
- 全メモリーデータの転送されると、送り側、受け側ともALL PASSが表示された後、CoPYの表示に戻ります。
- クローン時間は、転送するメモリーの登録状況にもよりますが、約1分15秒です。

- 2台のMVT-3400の電源をOFFにし、3.5φステレオミニプラグコードをはずす

クローン機能は電源をOFFにすると解除されます。

## リセット機能について(メモリーオールクリア)

メモリーをすべて消去して、工場出荷時の設定に戻すことができます。

### 全メモリーを消去する

1 一度電源をOFFにします

2 クリアキー $\square$ と決定キー $\square$ を同時に押しながら電源ボタン $\square$ を押して電源を入れます。



[CLEAR]が表示された後VFOモードになります。

#### ご注意

本機は工場出荷後、付属のメモリーリスト(暫定)の内容をチャンネルメモリーに登録してありますが、これらのメモリー内容はリセットの操作をすると全て消去されます。また、サーチバンドのメモリー内容も初期登録内容に変更されますのでご注意ください。個々のチャンネルメモリーの登録(変更)・削除、スキャンパスの登録は26~29ページを参照して行ってください。

### 工場出荷時の設定

項目	初期設定	参照ページ
動作モード*	VFOモード: 144.000.00MHz	16
ピープ音の切り換え	ON	45
キーロック機能	OFF	45
スキップ機能	OFF	42
オートメモリーライト機能	OFF	42
プライオリティ	OFF	32
アッテネーター機能	OFF	46
秘話解読機能	OFF	41
チャンネルメモリー	登録なし <sup>注1</sup>	26
プライオリティチャンネルメモリー	PO:350.1MHz,P1~P9:登録なし	32
サーチパスメモリー	登録なし	24
カレントチャンネルNo.	000CH	27

\*工場出荷時の設定はAUTOモード: 周波数ステップ、受信モードの設定は、プリセットに基づく。

※サーチバンドの工場出荷時の登録内容は22ページの通りです。

<sup>注1</sup> 工場出荷後、付属メモリーリスト(暫定)の内容をチャンネルメモリーに登録してあります。

### 主な無線局の周波数範囲と本機に設定されているシフト幅

No.	下限周波数(MHz)	上限周波数(MHz)	SHIFT周波数(MHz)	システム名称
0	142.00000	144.00000	4	救急・地方鉄道など
1	146.00000	148.00000	-4	救急・地方鉄道・ガス事業など
2	148.01000	150.67000	4	警察・救急・消防など各種業務用
3	152.01000	154.67000	-4	警察・救急・消防など各種業務用
4	156.00000	157.42500	4.6	国際VHFマリンバンド(船舶局)
5	160.60000	162.02500	-4.6	国際VHFマリンバンド(海岸局)
6	335.41250	335.58750	16.5	移動警電(移動局)
7	336.00000	336.02500	28.325	JR列車無線(旧Aタイプ列車側)
8	336.03750	336.78750	16.5	JR-B(列車側)・移動警電(移動局)
9	337.81250	338.08750	16.5	移動警電(移動局)
10	339.01250	339.28750	16.5	海自/海上保安庁船舶電話(移動局)
11	340.61250	342.48750	16.5	マリンホン(移動局)・他、各種業務
12	351.91250	352.08750	-16.5	移動警電(基地局)
13	352.53750	353.28750	-16.5	JR-B(指令側)・移動警電(基地局)
14	354.31250	354.58750	-16.5	移動警電(基地局)
15	355.51250	355.78750	-16.5	海自/海上保安庁船舶電話(基地局)
16	357.11250	358.98750	-16.5	マリンホン・他、各種業務
17	364.32500	364.35000	-28.325	JR列車無線(旧Aタイプ指令側)
18	367.01250	367.18750	18	ガス事業用MCA(移動局)
19	371.10000	372.12500	24.1	各種MCA(移動局)
20	382.62500	385.00000	16	各種事業/業務用(移動局)
21	385.01250	385.18750	-18	ガス事業用MCA(移動局)
22	395.20000	396.22500	-24.1	各種MCA(基地局)
23	398.62500	401.00000	-16	各種事業/業務用(基地局)

■主な無線局と周波数範囲と本機に設定されているシフト幅

No.	下限周波数 (MHz)	上限周波数 (MHz)	SHIFT周波数 (MHz)	システム名称
24	410.21250	411.02500	47.2	防災行政MCA (移動局)
25	421.56250	421.91250	18.45	特定小電力無線電話 (複信/半複信)
26	434.00000	435.00000	5	430MHz帯アマチュア (レピータアップリンクバンド)
27	439.00000	440.00000	-5	430MHz帯アマチュア (レピータアップリンクバンド)
28	440.01250	440.36250	-18.45	特定小電力無線電話 (複信/半複信)
29	450.25000	451.50000	8	タクシー無線 (基地局)
30	453.30000	453.33750	14.5	新タクシー無線 (基地局)
31	457.41250	458.22500	-47.2	防災行政MCA (基地局)
32	458.25000	459.50000	-8	タクシー無線 (移動局)
33	459.52500	459.97500	10	放送事業用 (複信の場合は移動局)
34	467.80000	467.83750	-14.5	新タクシー無線 (移動局)
35	469.52500	469.97500	-10	放送事業用 (複信の場合は基地局)
36	815.00000	820.98750	130	コンビニエンスラジオホン (基地局)
37	830.00000	833.98750	55	各種無線電話 (基地局/移動局)
38	834.00000	837.99375	55	MCA/JSMR (中継局)
39	843.00000	845.99375	55	新電電系自動車電話 (基地局)
40	847.20000	848.80000	54	地域防災行政MCA (半複信/基地局)
41	850.00000	884.99375	55	MCA/JSMR (中継局)
42	885.00000	888.98750	-55	各種無線電話 (基地局/移動局)
43	889.00000	892.99375	-55	MCA/JSMR (移動局)
44	898.00000	900.99375	-55	新電電系自動車電話 (移動局)
45	901.20000	902.80000	-54	地域防災行政MCA (半複信/移動局)
46	905.00000	939.99375	-55	MCA・新/旧電電自動車電話 (移動)
47	945.00000	950.98750	-130	コンビニエンスラジオホン (移動局)

※テレビの放送局の近くなど、強い電波が入る地域では、その影響を受けて、混信や雑音が入る場合があります。

# 故障かな？と思ったら

修理をご依頼になる前に、もう1度次のことをご確認ください。それでも異常や故障と思われるときは、お買い上げの販売店、または最寄りの弊社営業所・サービス部(添付の一覧表をご参照願います)にご相談ください。

症状	原因	処置
ディスプレイに何も表示されない	電池が消耗している	電池を交換する(15ページ参照)
ときどきPCHが表示される	プライオリティ機能がはたらいている	プライオリティ機能を解除する(32ページ参照)
P表示が点滅している	サーチバスメモリーを呼び出している	サーチバスメモリーリードを解除する(25ページ参照)
受信が途切れる	スケルチ調整が誤っている	スケルチ調整を正しく行う(16ページ参照)
	交信局の電波が弱い	モニターボタンを押す(44ページ参照)
	アッテネーター機能がはたらいている	アッテネーター機能を解除する(46ページ参照)
正常な音声で受信できない	秘話解読機能がONになっている	秘話解読機能を解除する(41ページ参照)
キーを押しても動作しない	キーロック機能がONになっている	キーロック機能を解除する(45ページ参照)
周波数を入力できない	受信周波数範囲でない周波数を入力している	受信周波数範囲内の周波数を入力する
サーチができない	スケルチ調整が誤っている	スケルチ調整を正しく行う(16ページ参照)
	モニターボタンを押している	モニターボタンを放す(44ページ参照)
スキャンができない	スケルチ調整が誤っている	スケルチ調整を正しく行う(16ページ参照)
	モニターボタンを押している	モニターボタンを放す(44ページ参照)
	すべてのチャンネルメモリーがスキャンバスに登録されている	スキャンバスの登録を解除する(29ページ参照)
すべてのチャンネルメモリーに何も登録されていない		チャンネルメモリーに登録する(26ページ参照)

# アフターサービスについて

## ■保証書(別に添付しています)

保証書は、必ず「販売店名・お買い上げ年月日」などの記入をお確かめのうえ、販売店からお受け取りいただき、保証内容をよくお確かめのあと、大切に保管してください。

## ■保証期間

お買い上げの日から1年間です。

## ■対象部品

機器本体(消耗部品を除く)

## ■修理を依頼される時

「故障かな?と思ったら」の点検をしていただいても、なお異常があるときは

### ●保証期間中のとき

恐れ入りますが、お買い上げの販売店まで保証書を添えて製品をご持参ください。保証書の規定に従って修理いたします。

### ●保証期間が過ぎているとき

お買い上げの販売店にまずご相談ください。お客様のご要望により有料修理いたします。なお、故障状況は、なるべく詳しくご連絡ください。

## ■アフターサービスなどについてご不明な点は

お買い上げの販売店または、最寄りの弊社営業所・サービス部(添付の一覧表をご参照願います)にお問い合わせください。

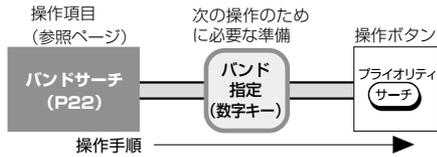
# 仕様

受信周波数範囲(MHz)	: 108~170MHz、300~470MHz、 806~1000MHz
受信モード	: FM、AM、AUTO
周波数ステップ(Hz)	: 5k、6.25k、10k、12.5k、25k、AUTO
受信感度	FM : SINAD 12dB時0.5 $\mu$ V以下 AM : S/N 10dB時0.7 $\mu$ V以下
チャンネルメモリー数	: 500ch
サーチパスメモリー数	: 100ch
プライオリティチャンネルメモリー数	: 10ch
バンクメモリー数	: 10BANK
チャンネル数/1バンク	: 50ch/BANK
バンドメモリー数	: 10BAND
サーチスピード	: 30STEP/sec
スキャンスピード	: 30ch/sec(最大)
アンテナインピーダンス/型式	: 50 $\Omega$ /BNC
電源	: 4.5V(単3形アルカリ乾電池 1.5V $\times$ 3本) 外部電源(ACアダプター: AC100V/カーバッテ リー: DC12V)
低周波出力	: 90mW以上(4.5V 8 $\Omega$ /THD10%)
消費電流(4.5V時)	: 最大出力時 ..... 180mA(標準) 待ち受け時 ..... 100mA(標準)
動作保証温度範囲	: 0 $^{\circ}$ C~50 $^{\circ}$ C (ACアダプター 0 $^{\circ}$ C~40 $^{\circ}$ C)
外形寸法	: 60.0(W) $\times$ 120.0(H) $\times$ 32.0(D)mm (突起物は含まず)
重量	: 約290g(付属アンテナ、電池を含んだとき)
別売オプション	: ソフトケース(OP-73) 標準価格2,000円(税別) : シガープラグコード(OP-5) 標準価格2,000円(税別)

\*製品改良のため、仕様および外観の一部を予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

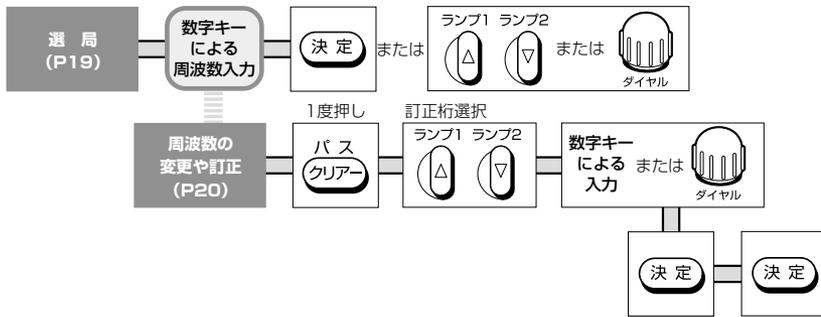
## 操作早見表の見方

この操作早見表は、左側の操作項目から、右方向へ順に操作してください。操作の詳細については、参照ページをご覧ください。

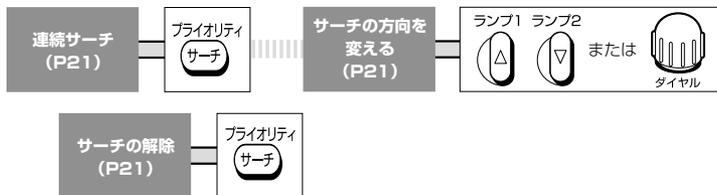


## 1 基本の操作

### 選局する…VFOモードで受信する。



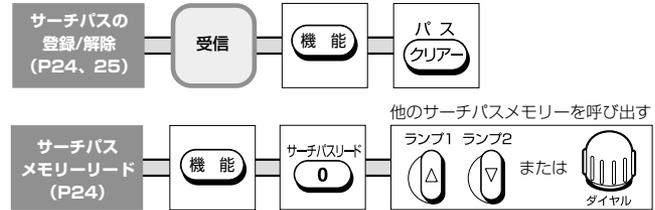
### 選局する…サーチモードで受信する。



### 選局する…バンドサーチ

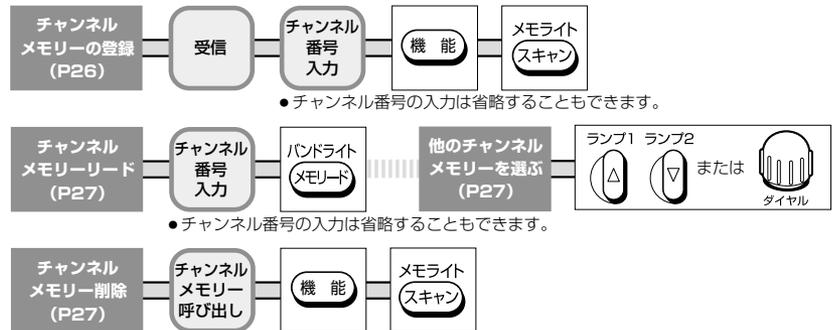


### サーチパスメモリー



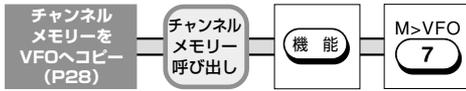
## 2 メモリーとスキャン

### チャンネルメモリー



知っておきたいこと

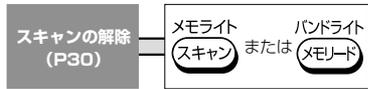
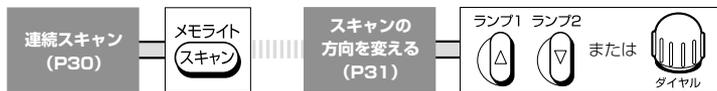
知っておきたいこと



スキャンパス



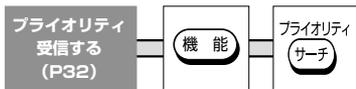
スキャン…連続スキャンする。



バンクスキャン

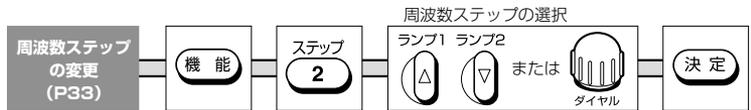


プライオリティ



3 その他の機能

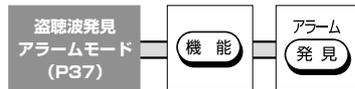
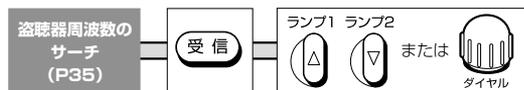
周波数ステップを変更する



受信モードを変更する



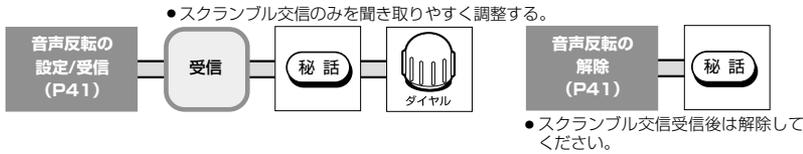
盗聴器を発見する



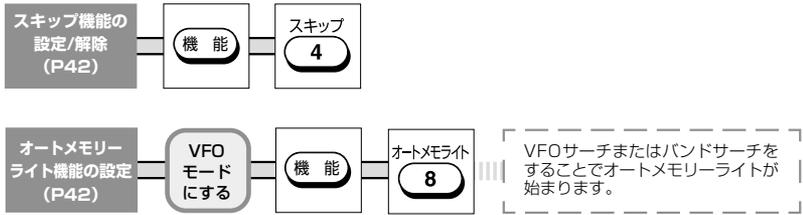
デュープレックス受信する



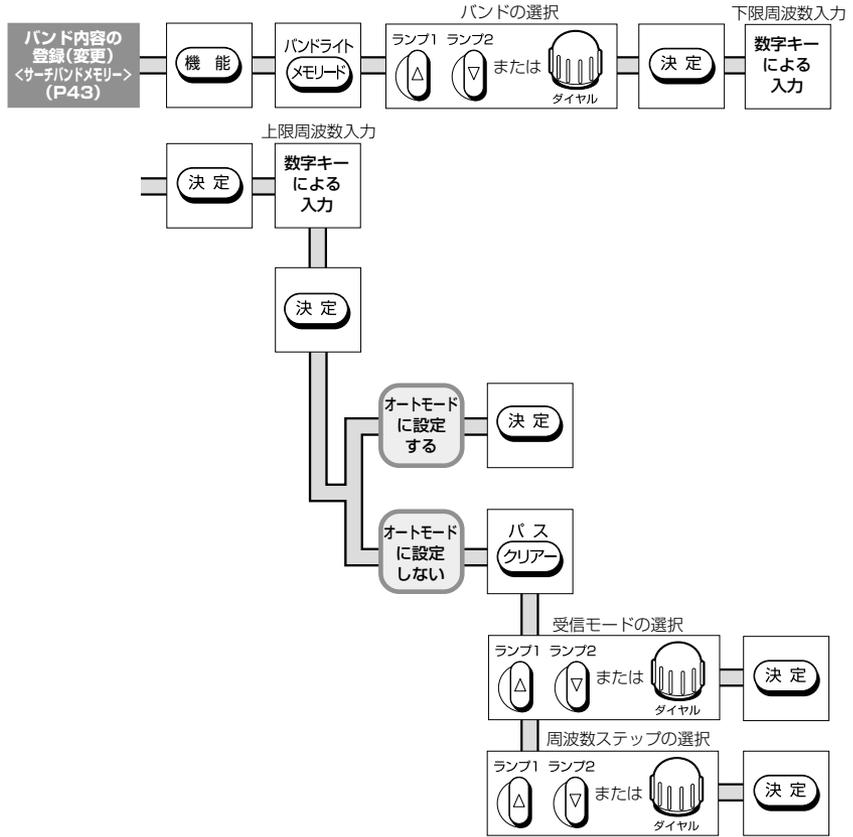
音声反転(スクランブル)の秘話受信を聞く



サーチやスキャンの付加機能



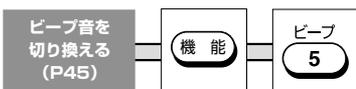
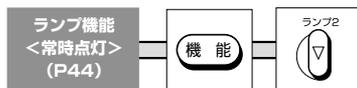
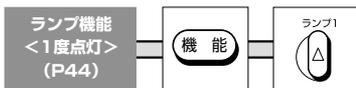
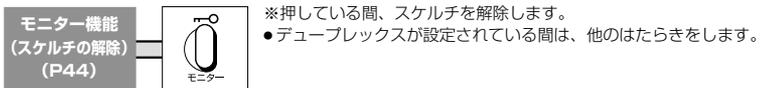
サーチバンドの内容を変更する



知っておきたいこと

知っておきたいこと

## 付加機能(便利な機能を使う)



## クローン機能...設定内容を他のMVT-3400にコピーする。

